

# STAGE 2-1

## 中川工場

新設 稼働中

### 竣工 DATA

竣工年月	1977 (昭和52) 年3月	
設計者	松本設計	
施工者	日東建設	
施設概要	敷地面積	3,763.23㎡
	延べ床面積	4,324.50㎡
	構造	S造一部RC造3階建
	プラットホーム	開放型高床式
	防熱方式	外壁内防熱・吊り天井防熱
収容能力	総トン数	7,155t
	F級	6,890t
	C級	265t
	C&F	×
	凍結	30t/日
冷却設備	施工者	第一冷凍プラント
	冷凍機メーカー	三菱ヨーク
	主要冷凍機	高速多気筒冷凍機
	冷媒	R-22
その他設備	冷却方式	分散式・直接膨張式・ユニットクーラー
		油圧直接式エレベーター2基



中川工場(1977 (昭和52) 年完成)も旧名古屋工場同様中川運河沿いに建てられたが、現在運河は下記の通り、公園になっている。



左端で荷降ろしをしている保冷車は新東海貨物有限会社(現ケーラインサービス株式会社)のトラックで、主に冷蔵庫間の貨物移動や輸入貨物の本船上げにパレット輸送を行うため、ウイング内にウレタン発泡を貼り付けた車両を使用していた。

**三** 三菱ヨークは弁割れや油上りが多くて、色々手が掛かったと当時の担当者が口を揃えて言っていたよ。また、クレイマーはサービス体制が悪く、不具合時の対応が悪かったみたいだね。創業者(故吉橋会長)は海外視察での経験から、クレイマーを試してみたかったんじゃないかな。他社にない新しいものを導入するのが好きな吉橋会長らしいよね。それと冷凍機は分散型だったよ。

**当** 時は集中型と分散型が混在していたのですね。

**中** 川工場は各室に小さい冷凍機を2台設置し、冷凍機が合計8台あったけど、免許がない者でも扱えたんだよ。でも、冷凍機の台数が多いので電気消費が大きいのとオーバーホール作業が大変だったよね。1980(昭和55)年当時、日本の牛肉の輸入は畜産振興事業団が唯一の窓口だったんだけど、年々輸入エイジドビーフの数量が拡大したので、急速凍結庫用の冷凍機と凍結室を増設したんだよ。ちょうど同じ時期に旧東京工場も凍結庫の増設工事を行ったんだよ。

**と** ころで、その後三菱ヨークの部品をメーカーが国内在庫を持たなくなったので、オーバーホール部品が手に入りづらくなったので、2005(平成17)年に長谷川鉄工の高速多気筒冷凍機に交換したんだよ。おかげでトラブルが無くなったよ。

**こ** こは、鉄骨造2階建てで穴開きPC板を床・外壁に活用するなどチャレンジした建物ですね。

### 運送会社社員から見たヨコレイ

当社では、中川工場が完成した間もなくから畜産事業団の畜肉を運ぶ仕事を請負っていました。当時貨物を引き取りに行く際、担当者から指示されるのは「積めるだけ積んで来い」だけ。1ケース45kg近くある牛肉を3時間以上掛け、言われた通り「積めるだけ積む」と大型トラックで20t以上になり、明らかな過積載状態で運んでいました。ただ、近郊の冷蔵庫までの折り返し運行なので、収入は結構良かったと思います。

また、当時ヨコレイの現場責任者から毎日配車予定表の提出を催促されていましたが、できる限り自社便で回そうとしていたので、いつも突然「これ積みますので」と連絡していたが、ある日いつもの通り突然連絡をしたら、黙って冷蔵庫の中まで連れて行かれ「この列の一番奥にあるので、出すのに2時間かかる」と怒られたことがあります。

当時の輸入ビーフの箱は相当重く、ヨコレイの社員の方々は化け物のような方が何人も居られ、毎日よくあれだけの数のコンテナを下せるものだと言っていました。

### 当時の工務担当者のつぶやき

**中** 川工場が一番大変だったのは毎日必ず1回行うデフロストだったかな。

三菱ヨーク製高速多気筒冷凍機が冷凍室4部屋に対して各部屋2台ずつ設置されていましたが、通常は各部屋1台の冷凍機で冷やしていましたが(冷えないときは2台を運転)。庫内のクーラーが入り口横上に設置されおり外気を直接吸い込むために霜付きが速く24時間に1回散水によるデフロストを行っていました。

1回のデフロストに1時間かかるので毎日4時間のデフロストが必要で冬場は、デフロスト水槽の水温が上がらず上がるのを待ちながらの作業でした。

デフロストの起動は手動スイッチだったので、休みの日にも必ずデフロストを行うため出勤していました。その当時は1人で見ていたのでほとんど休みが取れない状況でしたね。

デフロストのトラブルといえばクーラー内を散水するのですが、冷凍庫内の排水管が凍ってしまいクーラーから水があふれ出して庫内が水浸し、当然その水は凍ってしまい荷物は取れない、氷を割る作業は何日もかかり。加えて凍った配管箇所がわからず庫内にもってひたすら配管をバーナーであぶっていたという、さすがに途方に暮れたことを思い出します。



完成当時導入したアメリカ製冷凍機。

## 米国製最新冷凍機を導入! やっぱり新しいもの好きは変わらないなあ...

**焼** 津工場を買収した二年後、立て続けに中川、箱崎に工場が出来ましたが、どんな特長でしたか?

**子** 安工場の1号館建設以来、8年ぶりの高床式プラットホームだね。

中京地区は輸入貨物、特に畜肉が主な取扱い品目になっていて、海上コンテナや冷凍トラックが主流になり旧名古屋工場だけでは対応できなくなってきたので、近隣の土地を購入して建てたんだ。

**設** 備的にはどうですか?

**い** ろいろチャレンジした工場だね。

中川工場の冷凍機には、チルド部屋用には、米国製のクレイマーと言う冷凍機が、F級部屋には三菱電機が日本でOEM販売していた米国のヨーク社製の三菱ヨークという冷凍機が導入されていたんだ。この三菱ヨークはこの時期に旧東京工場や神戸工場にも導入していたんだけど、とにかく扱いにくかったそうだよ。クレイマーは全自動だったんだけどね。

**そ** んなに、扱いにくかったのですか?

## column 穴開きPC板(スパンクリート)

穴開きPC板(スパンクリート)は、1964(昭和39)年に(株)スパンクリートコーポレーションが生産を開始した建築・土木用資材のこと。スパンクリートは縦方向に中空孔をもち、PC鋼線によってプレストレスを与えられたコンクリート板で、建築物の軽量化、プレハブ化の促進および工事の安全確保などの面で著しい効率を生み出しました。

スパンクリートは同重量のコンクリートに比べ、中空孔により断熱性能、遮音性能、耐火性能面で優れており、プレストレスコンクリートの導入により耐力も強く、建築、土木の各分野で広範囲に利用されています。

(資料参照:日本スパンクリート協会)

